

Event Focus

ブラックマジックデザインが「URSA Mini 4.6K 発売記念 カメラ体験会・ユーザートークセッション」を開催

中山 秀一

ブラックマジックデザインというメーカーは、2012年のNABで、初めてシネマカメラを発表し、大変な話題を提供した会社だ。筆者もその時NABの取材をしており、その明るくて個性的なブースを見た時の鮮烈な印象は、今でも強く記憶に残っている。また、プレスルームでの情報交換でも、このブースが大いに話題となっていたことをよく覚えている。

広く明るいスペースを、コの字型に囲った茶色系のパネルには、展示製品の説明と価格がすべて明記してあり、配布された分厚いカタログには、美しい機材の写真と共に、ここにもすべての価格が印刷されている。しかも、その価格が驚くほど安いので、実機を手にとってみると、ずっしりと重量感があり、プロ用カメラであることを実感させられた。

同社は日本のInterBEEにも同じデザインの展示ブースで進出し、展示製品のすべ

てに価格を表示して、日本の業界に革命的な刺激をもたらした。

そのブラックマジックデザインが4月26日に、新発売のカメラ「URSA Mini 4.6K」を体験する展示会と、このカメラのユーザーによるトークセッションを開催した。会場は、今年2月に新しくオープンした新宿御苑前のショールームである。

このカメラは、すでに販売されているURSAのコンパクト版だが、外部機材が不要でワンマンオペレーションに適した「オールインワン」、という特徴を継承しながら、大幅に小型軽量化を実現している。またオプションとして、URSA Miniをショルダーマウントした場合に便利な、ルーペ式のファインダー「Blackmagic URSA Viewfinder」も使用できる。この画面には解像度1920×1080の有機ELが使われており、画質が優れているので、フィルム出身のカメラマンにも違和感なく使える

と思う。さらに、シネ用カメラとして伝統的なマットボックスや、フォローフォーカスなどのアクセサリも使用できるので、シネ志向のユーザーにとって魅力的だ。

展示体験会では2台のURSA Mini 4.6Kが、女性モデルに向けて展示され、参加者たちは自由に手に触れて、モニターの画像を確認していた。

このモデルは、ブラインドを開けた窓に背を向けているので、撮影にはかなり厳しい逆光である。しかし、僅かな補助ライトを当てるだけで、背景の白つぶれもなく、綺麗な映像だ。このカメラの15ストップという広いダイナミックレンジが納得できる諧調であった。

ピントが合っている部分に、フォーカスアシストのエッジが表示される。これは、ルーペ式ビューファインダーと、開閉式5インチモニターにも表示できるので、ワンマンオペレーション時にも便利に違いない。



002- オープンしたばかりのショールームは開放的な間取り



003- 窓外を背景に厳しいコントラスト比でモデル撮影



004- 『SLOW TIME』 千葉 孝



005- 作品の上映『春節祭』 仲 雷太



006- 『Bamboo Flute Orchestra』 タカハシ ケイ



007- 参加者たちと共に「URSA Mini 4.6K」を語り合った

☆ゲストスピーカー 3 名によるトークセッション

URSA Mini 4.6K のユーザー 3 名が、それぞれの作品を上映し、参加者約 20 名を前に、このカメラの魅力などについて語り合った。

ゲストスピーカーの名前と作品は次のとおり。

- ①千葉 孝：ヘルメット（株）、撮影監督・DIT
作品：『SLOW TIME』：ハイスピード撮影を多用して、女性モデルのスロー映像を印象的に表現した作品。
作品：『TOKYO Night Train Shoot of URSA Mini 4.6K』：川崎市 JR 大川駅の夕暮れ時から夜にかけての変化を、電車の出入り、人々の動きなど薄暮の映像で表現。
- ②仲 雷太：a.k.a. Raitank、映像クリエイター
作品：『軍艦島見学募集案内』、『春節祭』：長崎のチャイナタウンを、ISO 800 及び 1600 の高感度で撮影。
- ③タカハシケイ：(株) KID 映像監督・シネマトグラファー
作品：『Bamboo Flute Orchestra』：尺八奏者・辻本好美の演奏を幻想的な映像

で表現したミュージックビデオ。

トークセッションでは、全員がこの URSA Mini 4.6K の魅力について熱く語っており、予定の時間を大幅に超えるほどの盛り上がりであった。

このカメラは、他社とは全く異なる別物だ、現場でもラボでも、グレーディングの楽しさを与えてくれる。

大変使いやすいカメラで、小さな作品から CM の大がかりな撮影にも、目的を選ばず適応できる。

ISO 感度は 800 から 1600 の高感度まで可能だが、暗部ノイズが非常に少なく、800 なら常用感度として使用できる。（『春節祭』は ISO 800/1600 で撮影）

このカメラは、正確な描写だけでなく、フィルムルックで味わいのある映像に仕上がるのが素晴らしい。

等々で、このあとはトークの内容を踏まえて、参加者たちと情報交換しながら交流を行った。

今回のイベントを取材して感じたことは、来場者たちが圧倒的に若者で、熱心に展示



008- 『TOKYO Night Train Shoot of URSA Mini 4.6K』 千葉 孝・ショパンのノクターンに乗せて、薄暮時の映像で綴るシネポエム

カメラを手に取り、肌で触れて体感していたことだ。

そして、トークセッションに登場したクリエイターたちも、フィルムによる撮影経験がない人たちだが、その上映作品は、新しい感性による作品であった。

このメーカーの、高画質で廉価、ワンマンオペレーションなどの開発ポリシーが、新しい分野の映像ビジネスを創出していることを感じた。

Syuichi Nakayama
日本映画テレビ技術協会名誉会員